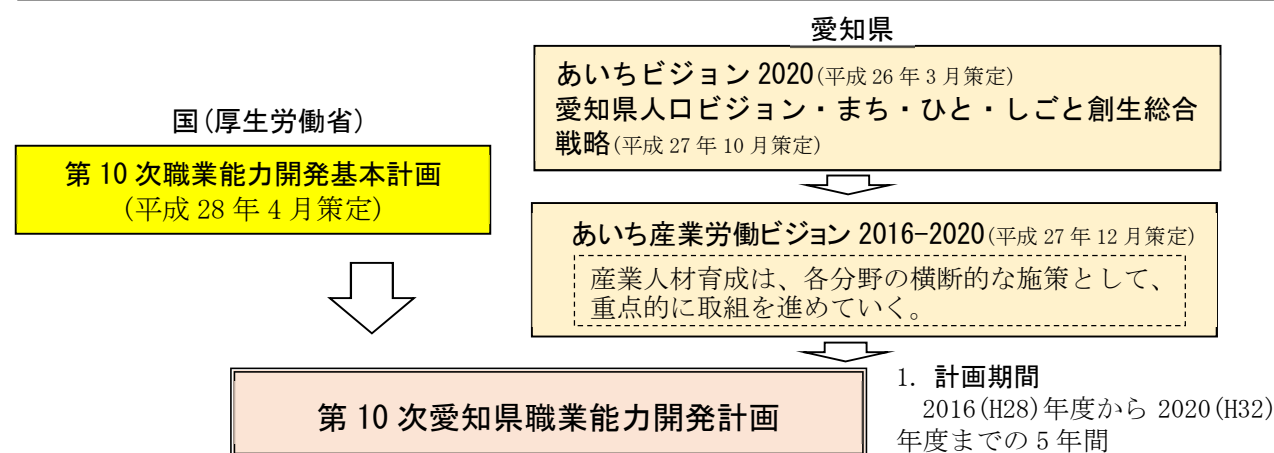




第10次愛知県職業能力開発計画の概要

本県では1971(昭和46)年度以降、5年毎に職業能力開発計画を策定してきた。2015(平成27)年度に第9次の計画が期限を迎えるため、少子高齢化、グローバル化の進展など社会環境の変化を踏まえ、県内の職業能力開発に関する基本となる第10次の計画を策定する。

計画の位置づけ・計画期間



本県の産業人材育成(職業能力開発)に関する課題

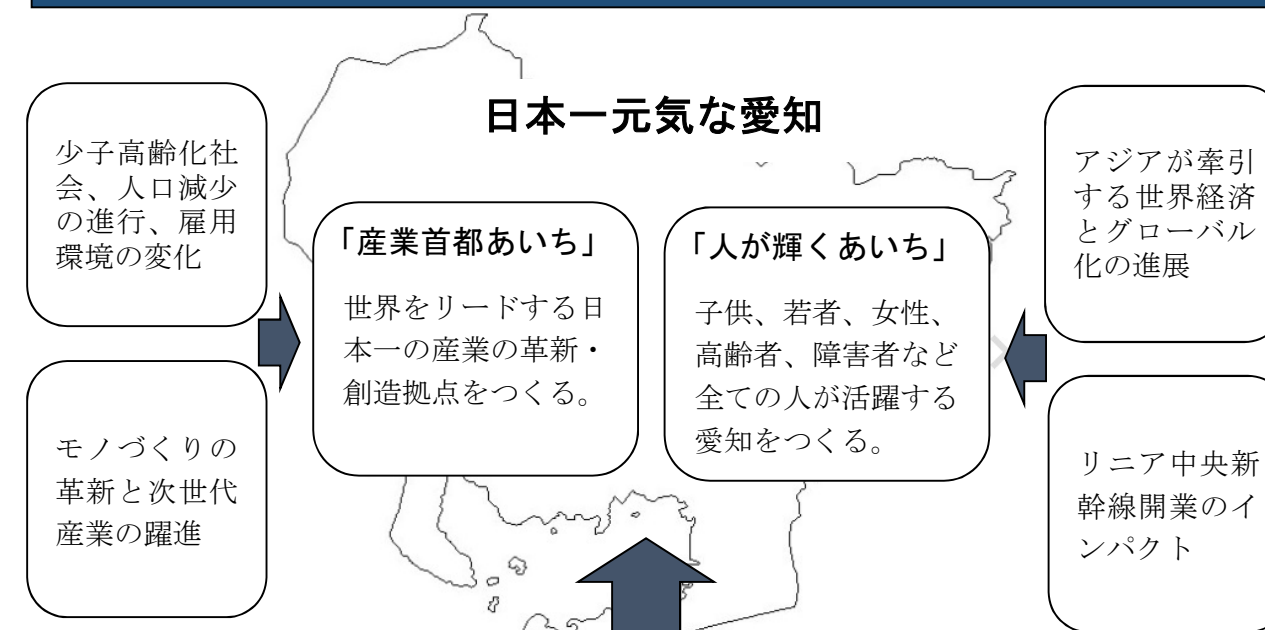
- モノづくりの基盤を支える技術者・技能者が不足
- 中小企業は社内での人材育成が不十分
- 早期離職や不安定雇用の増加、理系人材の不足

テーマ

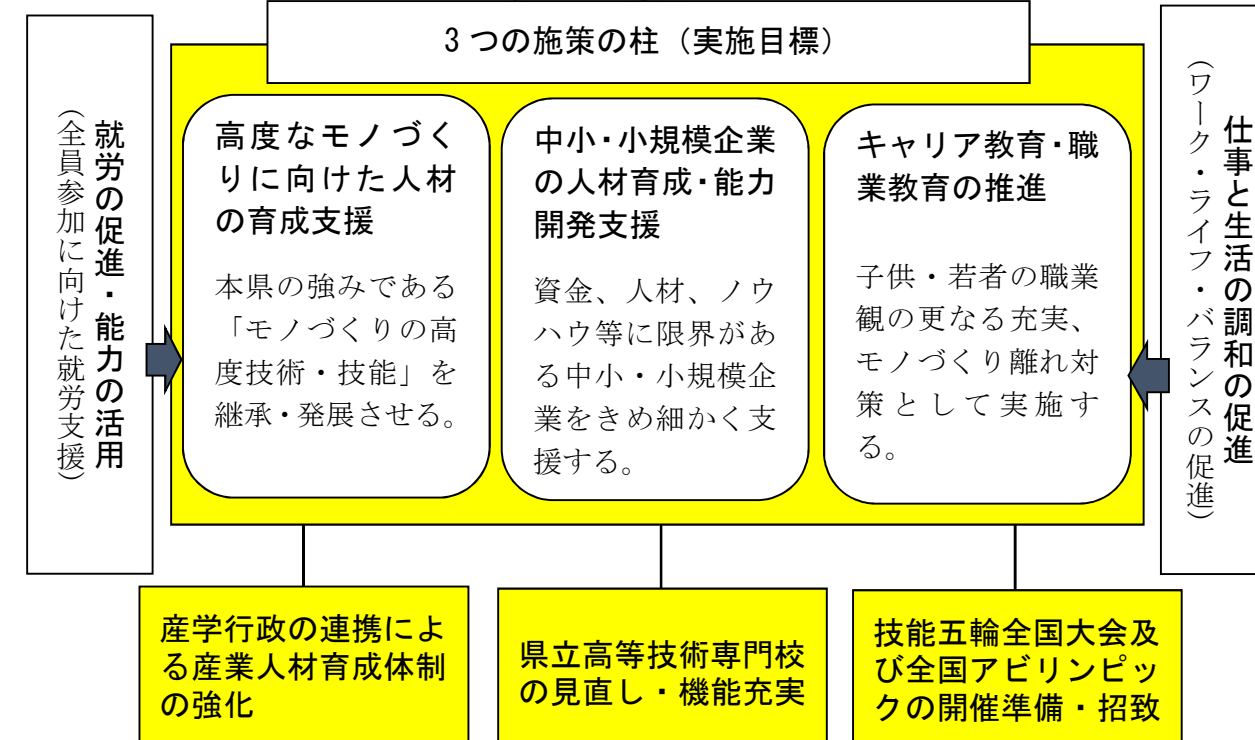
産業を支え、地域を支える産業人材の育成・強化
～日本一の「産業首都あいち」・「人が輝くあいち」づくりを目指して～

1. 本県の強みは、製造品出荷額等の38年連続日本一を支える「モノづくり」であり、モノづくり企業の大半を占めるのは中小企業である。
2. 本県では、2014(平成26)年8月に、副知事をリーダーに、「産業人材育成・確保促進プロジェクトチーム」を立ち上げ、取組の方向性などを検討し、「あいち人材強化プロジェクト」として関連施策の充実・拡大を図ってきた。
3. 2015(平成27)年度には、産業労働部内に産業人材育成課を新設するとともに、7月に県内の経済・労働団体、各種教育団体等による「愛知県産業人材育成連携会議」を設置・開催し、地域を挙げて産業人材育成に取り組む体制を整備した。
4. 現在、2019(平成31)年度の技能五輪全国大会の本県開催内定(2015年12月)を受けて準備を進めるとともに、連続して2020(平成32)年度の技能五輪全国大会、全国アビリンピックの本県開催を目指している。
5. 技能五輪国際大会については、2020年代初頭の本県開催招致に向けた研究を行っている。
6. 加えて、本県の公共職業訓練を支える県立高等技術専門校については、「しなやか県庁創造プラン(愛知県第六次行革大綱)」において、2019(平成31)年度までに必要な見直しを進めていくことになっている。

施策の柱・具体的な取組



3つの施策の柱(実施目標)



計画の進捗管理

1. 計画の進捗を的確に管理するため、あいちビジョン2020及びあいち産業労働ビジョン2016-2020に基づき、計画の期間の最終年である2020年における「目指すべき地域の姿(アウトカム指標)」及び、これを目指して取り組む「県や関係機関が実施すべき目標(アウトプット指標)」を設ける。
2. これらの目標は、計画策定後に愛知県職業能力開発審議会にて進捗管理する。